

小羽山小コミスク通信



令和6年3月26日



さまざまな立場から学校課題について考える

～ 学校運営協議会での熟議

「小羽山小学校『くらしのやくそく』『遊びのやくそく』について考えよう」～

今年度より宇部市内の公立小中学校では、子どもたちが、自分の通う学校のきまりを自分事と捉え、児童生徒同士や周りの大人と対話をしながら、自らの充実した楽しい学校生活のために行動できるようになることをめざし、校則見直しを進めています。

本校でも、校則見直しのスタートにあたる今年度は6年生を中心に「小羽山小学校『くらしのやくそく』『遊びのやくそく』」が自分たちが気持ちよく学校で過ごすためのきまりとして適したものであるかどうかを話し合ってきました。6年生同士で熟議を行ったり、他学年の子どもたちとも意見を交流したりしながら、「学校のきまり」に対する自分の思いを深めていきました。

そして、第5回学校運営協議会において、6年生が練り上げてきた思いを地域（協議会委員）の皆さんと熟議で語り合いました。今回の見直しを通して、子どもたち自身も6年間「学校のきまり」をどれだけ意識していたか、きまりを守っていくことで学校生活がどのように変わっていくのか、などさまざまな発見をしたり考えを改めたりすることができました。また、地域（協議会委員）の皆さんからは「子どもたちは真剣に考えてくれた。私たち大人も参加ではなく参画できれば良いと思う。」「熟議で発表した子どもたちは生き生きと発表していたのでこれが伸びていくと良い。」「すべての学年、子どもたちはたくさんの意見をもっているので代表委員会などで出していけるとよい。」といった肯定的な意見もいただきました。



6年生同士での熟議



6年生と4年生の意見交流

居心地のよい学校づくりに欠かせない「学校のきまり」は、子どもの実情は勿論、保護者の考え方、地域の状況、社会の常識などを踏まえたものでなければなりません。そのためにも、一度つくったら終わり、ではなく、その場にいる子どもたちが納得したものになっているか、時代の流れに応じたものになっているか、これからも学校（子ども・教職員）、家庭、地域のさまざまな視点から積極的に見直していきたいと思います。



学校運営協議会での熟議

